

# 令和8年度 岩手県立盛岡青松支援学校経営計画

校長： 安達 史枝

1	校訓・教育目標	<p>&lt;校訓&gt;  <b>明 朗（明るく元気な人）</b>  <b>自 主（進んで学ぶ人）</b>  <b>創 造（挑戦し考える人）</b></p> <p>&lt;教育目標&gt;  <b>児童生徒が主体的に学習に取り組みながら、病気や障がい乗り越え、希望をもって明るく強く生き抜く豊かな人間性を育む</b></p>				
2	現状把握及び将来展望	(1) 学校に対するニーズ	<p style="text-align: center;">児童生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の確保による、心と体のケア</li> <li>・生活経験の拡充と自己肯定感を高める多様な経験</li> <li>・希望進路に向けた取組</li> </ul>	<p style="text-align: center;">保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全、安心な教育環境と教育活動の充実</li> <li>・基本的生活習慣の確立と生きる力の醸成</li> <li>・基礎学力の定着と希望進路の実現</li> </ul>	<p style="text-align: center;">地域住民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に係る積極的情報公開</li> <li>・地域資源、地域人材の活用</li> <li>・地域との連携と活動への積極的参加、協力</li> </ul>	<p style="text-align: center;">他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する小中学校や市町村教委等との連携</li> <li>・心身に病のある児童生徒の相談支援</li> <li>・特別支援学校のセンター的機能の充実</li> </ul>
		(2) パートナーとの関係	<p style="text-align: center;">児童生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・学習活動への主体的な参加</li> <li>・社会参加に向けた知識や態度の習得</li> </ul>	<p style="text-align: center;">保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用</li> <li>・教育活動の情報発信と協力</li> <li>・進路に関する情報提供と理解の促進</li> </ul>	<p style="text-align: center;">地域住民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の情報発信と地域資源、人材活用</li> <li>・地域活動への積極的参加と交流活動の促進</li> </ul>	<p style="text-align: center;">他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正就学につなげる県教委との連携強化</li> <li>・主治医や学園、原籍校との連絡及び調整</li> <li>・教育相談、相談支援の充実</li> </ul>
	(3) 学校に影響を与える変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する児童生徒の病状、障がいについての正しい理解と適切な支援</li> <li>・児童生徒数の減少と年度途中での転入者への対応</li> <li>・職員数の減少による業務負担と健康維持</li> </ul>				
3	目指す学校像	(1) 今年度の重点目標	重点目標	達成指標		
		ア	豊かな心を育み、基本的な生活習慣の確立と健康増進に努める。	・学校評価アンケート(職員)のうち「望ましい生活習慣に関する情報提供や指導が適切に行われている」の項目プラス評価の割合 <b>【96%以上】</b>		
		イ	一人一人が意欲をもち主体的に学習に取り組めるよう、授業及び教育課程の改善を進める	・学校評価アンケート(職員)「積極的に他の教員の授業を見学し、授業改善を行っている」の項目プラス評価の割合 <b>【90%以上】</b>		
		ウ	自分らしい生き方の実現に向け、必要な経験が積めるよう、段階を踏んだキャリア教育を充実させ、地域に貢献できる人材の育成を図る。	・学校評価アンケート(保護者)児童生徒の進路実現に係る項目プラス評価の割合 <b>【95%以上】</b>		
		エ	特別支援教育の専門性向上のための研究及び研修を充実させる。	・学校評価アンケート(職員)「専門性向上のための研究・研修に積極的に取り組んでいる」の項目プラス評価の割合 <b>【96%以上】</b>		
		オ	病弱虚弱教育を行う特別支援学校の教師としての使命感をもち、地域や関係機関との連携を深めながら特色ある教育活動を推進する。	・学校評価アンケート(関係機関)学校との連携に係る項目プラス評価の割合 <b>【90%以上】</b>		
		カ	学校いじめ対策組織を中核として、いじめの防止や早期の発見と解決、再発防止のための日常的な指導支援の工夫を図る。	・学校評価アンケート(児童生徒)「学校はいじめ防止に適切に取り組んでいる」の項目プラス評価の割合 <b>【95%以上】</b>		

		<p>キ 教職員一人一人が児童生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する。</p>	<p>・学校評価アンケート(職員)「体罰・不適切な言動の予防に努めており、体罰や不適切な言動は見られない」の項目プラス評価の割合 <b>【90%以上】</b></p>
(2) 取組方針	<p>ア 豊かな心を育み、基本的生活習慣の確立と健康増進に努める。</p> <p>(ア) 病気や障がいの理解とカウンセリング・マインドを活かした「心と体のケア」の充実</p> <p>(イ) 児童会・生徒会活動、部活動等の活性化</p> <p>(ウ) あいさつ運動の推進</p> <p>(エ) 小学校、中学校、高等学校間の交流及び共同学習の推進</p> <p>(オ) 安全教育、保健指導の充実</p> <p>(カ) 体験的学習の充実</p> <p>(キ) 防災・復興教育の推進</p>	<p>イ 一人一人が意欲をもち主体的に学習に取り組めるよう、授業及び教育課程の改善を進める。</p> <p>(ア) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「キャリアパスポート」等に基づいた支援と指導の充実</p> <p>(イ) 「個別の指導計画」を活用した自立活動の充実</p> <p>(ウ) 各教科、学部等による観点別評価及び授業改善の実施</p> <p>(エ) 指導内容及び教材の精選、指導方法の工夫、ICT機器の積極的な活用</p> <p>(オ) 家庭学習の計画的な実施と内容の工夫</p> <p>(カ) 学級編成、教育課程等の改善及び個々に合わせた実践の充実</p>	<p>ウ 自分らしい生き方の実現に向け、必要な経験が積めるよう、段階を踏んだキャリア教育を充実させ、地域に貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>(ア) キャリア教育の全体計画に基づいた、各学部が連動した具体的な取組の推進</p> <p>(イ) 「キャリアパスポート」等を活用し、自ら目標をもった進路選択希望進路実現につながるよう、進路指導や外部関係機関との連携を重視</p> <p>(ウ) 自己肯定感を高め地域社会との関わりに理解を深められる指導の工夫</p>
	<p>エ 特別支援教育の専門性向上のための研究及び研修を充実させる。</p> <p>(ア) 研究授業、授業研究会の充実</p> <p>(イ) 児童生徒の指導・支援に直結する研究の推進</p> <p>(ウ) 学識経験者等との連携による病状や障がいに関する研修会の実施</p> <p>(エ) 各研修会への積極的な参加と研修報告会による校内への還元</p> <p>(オ) 研究成果の効果的な活用</p>	<p>オ 病弱虚弱教育を行う特別支援学校の教師としての使命感をもち、地域や関係機関との連携を深めながら特色ある教育活動を推進する。</p> <p>(ア) みちのくこども療育センターとの連携の充実</p> <p>(イ) 本校の教育活動の周知とエリアコーディネーターとの連携による支援センター業務の充実</p> <p>(ウ) 支援会議等による各関係機関との共通理解と支援体制の構築</p> <p>(エ) 地域の教育資源の活用及び地域交流や表現活動等への積極的な参加推進</p>	<p>カ 学校いじめ対策組織を中核として、いじめの防止や早期の発見と解決、再発防止のための日常的な指導支援の工夫を図る。</p> <p>(ア) アンケートや面談等によるいじめの兆候の把握</p> <p>(イ) いじめ防止対策委員会におけるいじめに関する情報の共有と組織的対応の徹底</p> <p>(ウ) 指導場面における児童生徒一人一人のよさを認める指導支援の工夫</p>
	<p>キ 教職員一人一人が児童生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する。</p> <p>(ア) 不適切な指導等に関する正しい理解の普及徹底</p> <p>(イ) 指導における悩みを職員間で共有し、不適切な指導については「子どもを守る」強い意識で管理職に報告できる職場風土の醸成</p> <p>(ウ) 教職員が心身ともに健康で生き生きと活躍し、互いに支え、高め合い、感動を分かち合える同僚性の向上</p>	<p>キ 教職員一人一人が児童生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する。</p> <p>(ア) 不適切な指導等に関する正しい理解の普及徹底</p> <p>(イ) 指導における悩みを職員間で共有し、不適切な指導については「子どもを守る」強い意識で管理職に報告できる職場風土の醸成</p> <p>(ウ) 教職員が心身ともに健康で生き生きと活躍し、互いに支え、高め合い、感動を分かち合える同僚性の向上</p>	<p>カ 学校いじめ対策組織を中核として、いじめの防止や早期の発見と解決、再発防止のための日常的な指導支援の工夫を図る。</p> <p>(ア) アンケートや面談等によるいじめの兆候の把握</p> <p>(イ) いじめ防止対策委員会におけるいじめに関する情報の共有と組織的対応の徹底</p> <p>(ウ) 指導場面における児童生徒一人一人のよさを認める指導支援の工夫</p>
	<p>4 業務量管理・健康確保措置</p>	<p>・専門家によるメンタルセミナー-研修会を実施</p> <p>・月当たりの時間外在校時間の縮減</p> <p>・誰にでも相談しやすい職場づくり</p>	

